

1 教育・保育方針(目指すこどもの姿)		
①元気で明るくのびやかな子どもの育成 ④節度ある態度が身につく子どもの育成	②よく考えることができ、自主性のある子どもの育成 ⑤誰とでも仲良く、思いやりのある子どもの育成	③創造性が豊かで、最後までやりぬく子どもの育成

2 教育・保育目標
①安心・安全な環境の中で、明るく情緒が安定した園生活を送れるようにする。 ②戸外遊び、運動遊びをしっかりと行い、身体の調整力を伸ばす。 ③人の話を聞き、子どもが主体的に自ら考えたり選んだりし、自分の言葉で発信できるようにする。 ④絵本の読み聞かせ、廃材制作などを通し、集中力、創造力を身につける。 ⑤様々な活動の経験や物的、人的環境を通して豊かな人間性が身につくようにする。

4 自己評価																																																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価領域</th> <th>重点目標</th> <th>具体的方策(教育活動)</th> <th>質問内容</th> <th>評価基準</th> <th>達成度</th> <th>重点目標の達成状況の診断・分析</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">園経営・運営</td> <td>園教育目標の具現化</td> <td>・園だより、クラスだよりの発行 ・ブログの更新</td> <td>園は、月々の目標や日常の教育活動の様子などわかりやすく伝えている。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>3</td> <td>・各学年の月目標を園だよりに記載し、保護者にも周知を図っている。今後は、家庭と連携しながら月目標の達成を目指していく必要がある。そのためには、家庭で取り組んでほしいことを具体的に知らせるとよい。 ・園行事や園での生活・活動をブログに即時掲載し、こまめな更新に努めた。</td> </tr> <tr> <td>保護者の参画意識の醸成</td> <td>・公開保育(参観日)の実施 ・様々な園行事の公開 ・未就園児の会の開催</td> <td>園は、子育て支援・保育参観・保育参加など、行きやすい雰囲気での幼稚園作りを積極的に行っている。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>3</td> <td>・運動会は観覧人数の制限を設けず実施でき、子どもがのびのびと遊ぶ姿を披露できた。 ・発表会や参観日、誕生日会等、来園者が多かったことから、保護者の参観意識の高さを感じた。 ・未就園児の会では、外部講師を招聘し、様々な活動に取り組んだ。参会者の拡大が今後の課題である。</td> </tr> <tr> <td>緊急体制の確立</td> <td>・れんらくアプリの活用 ・引き渡しカードの作成・確認</td> <td>園から、緊急の場合の連絡方法など、対応について知らされている。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>4</td> <td>・台風接近時や降雪時には、できるだけ早く園の対応を知らせ、保護者が勤務の調整ができるように努めたことで、大きな混乱がみられなかった。 ・引き渡しカードの点検・見直しを図るとともに、引き渡し訓練の実施が必要と考える。</td> </tr> <tr> <td>危機対応体制の確立</td> <td>・月1回の避難訓練の実施 ・毎月の施設及び遊具点検 ・毎日の保育室の安全点検</td> <td>園では、防災・避難訓練など、園児の安全に関する適切な指導を行っている。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>4</td> <td>・地震、火事、大雨、水害、不審者等を想定し、毎月、避難訓練を実施し、大型絵本や寸劇等で、安全な避難について指導している。今後は、外部指導者を招聘したい。 ・毎月の定期点検に加え、毎日の目視点検を実施し、遊具や保育室の安全確認に努めている。</td> </tr> <tr> <td>積極的な情報発信</td> <td>・園だより、クラスだよりの発行 ・ブログの更新</td> <td>園は、幼稚園の情報を園だより、クラス便りやブログなどを通じてわかりやすく保護者に伝えている。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>3</td> <td>・園だよりでは、巻頭文で園での子どもの様子や園の保育・教育方針等を記述するとともに、保護者へのお願いやお知らせを掲載している。 ・子どもの活動の様子や行事の様子を、わかりやすい文章とたくさんの写真で伝え、読みたくなるクラスだよりになるように工夫した。</td> </tr> <tr> <td>相談体制の確立</td> <td>・連絡帳やれんらくアプリの「連絡帳」の活用 ・個人懇談の実施(1・3学期) ・必要に応じて、随時、相談を実施</td> <td>園は、子どもの事や保護者の相談を聞く姿勢や体制を作っている。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>3</td> <td>・年2回の個人懇談の機会を設定するとともに、必要に応じて保護者からの相談に対応している。 ・送迎時に声掛けをしたり些細なことでも伝えるようにしたりして、話しやすい雰囲気づくりやボール形成に努めたが、肯定率が80%以下であることから、一層の聞く姿勢に心掛けたい。</td> </tr> <tr> <td>預かり保育の充実</td> <td>・家庭の実情を踏まえた預かり保育の受け入れ</td> <td>園の預かり保育(長期・時間外)について満足している。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>3</td> <td>・預かり保育の人数が100名を超えており、担当教職員の人数が不足し、人数確保に苦慮している。今後、2号認定園児がますます増えていくことが予想されることから、場所や担当職員の人数等の対策が必要と考える。 ・長期休業中や午前保育でも、給食の提供など、保護者の支援となるよう対応している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">徳</td> <td>発達段階に応じた教育</td> <td>・各学年の教育・保育目標の設定 ・子どもに寄り添った教育・保育活動の実践 ・保育日誌による記録と振り返り ・必要に応じて個別の教育支援計画及び指導計画の作成 ・読書活動の推進</td> <td>園は、子どもの発達に合った保育活動や園行事を行っている。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>4</td> <td>・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を指標として、子どもの思いや願いを見取り、保育・教育活動に取り組んできた。 ・ユニバーサルデザインの視点に立ち、特別な支援を必要とするか否かを問わず、どの子どもも大切に保育・教育を進めている。</td> </tr> <tr> <td>基本的な生活習慣の形成</td> <td>・登降園時のあいさつの励行(保育教諭の出迎えや声かけ) ・活動後の後始末の習慣付け ・「自分のことは自分で」の励行</td> <td>園は、あいさつや身の回りの始末など、基本的な生活習慣を身に付け、生活できるように指導している。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>4</td> <td>・保育教諭から率先して挨拶をする姿を見せ、子どもたちの手本となるように心掛けてきた。 ・身の回りの整理整頓(後始末)については、日々の様々な活動の後に後始末の時間をとって、個別対応をしながら習慣化できるように丁寧に指導してきた。</td> </tr> <tr> <td>交通安全指導の徹底</td> <td>・定期的な交通安全教室の開催 ・正門前の横断歩道にて、渡り方指導 ・園外保育等での道路の歩き方の指導</td> <td>園では、幼児の交通安全について子どもと保護者に適切な指導を行っている。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>4</td> <td>・学期に1回、交通安全教室を開催し、大型絵本や寸劇を通して、交通事故の恐ろしさや交通ルール等を指導している。 ・毎日の送迎時に、正門前の横断歩道で渡り方指導を行い、親子の交通安全意識を高めている。 ・園外保育等で、バスの乗り方や道路の歩き方について指導した。</td> </tr> <tr> <td>親しみやすい園づくり</td> <td>・子どもの表情等の観察(小さな変化を見逃さない) ・保育教諭の声かけ ・全教職員による見守り及び情報共有</td> <td>子どもが喜んで登園し、明るく元気に遊んでいる。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>4</td> <td>・子どもが安心して友達と関わったり活動したりすることができるように、個々の子どもに声掛けをしたり全教職員で個々の子どもを見守ったりしている。 ・些細な気づきを伝え合い、学年会や職員連絡会等で教職員で共有するようにしている。</td> </tr> <tr> <td>動植物への愛護心の育成</td> <td>・季節の花を楽しむ花壇の整備 ・野菜の苗植え・収穫 ・うさぎの飼育と観察</td> <td>園は、飼育栽培などを通じて動植物との関わりを持てるようにしている。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>2</td> <td>・教職員作業で花壇を整備し、子どもたちが季節ごとの花を楽しむことができるように努めている。 ・園外活動で、芋やじゃがいも、玉ねぎの植え付けや収穫を体験し、子どもは育てる喜びを感じている。 ・うさぎに接することができるように、天気の良い日には職員室前にうさぎのケージを出すようにしている。 ・子どもたちが動植物に関わる体験を増やしていく必要がある。</td> </tr> <tr> <td>健康管理の徹底</td> <td>・毎朝の健康観察の実施、アプリの確認(体温) ・毎朝の保育室の環境の点検 ・体調不良時やけがをした時における、適切な初期対応及び家庭への確実な連絡 ・感染症状況のお知らせ</td> <td>園は、子どもの健康状態を把握し、健康管理について適切な処置をとれている。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>3</td> <td>・毎朝、アプリを確認し、個々の健康状況の把握に努めている。体温の入力がない家庭への働きかけが必要。 ・毎朝、保育室の室温・湿度・臭い等を点検・記録し、良好な環境で園児を迎えるようにしている。エアコンや空気清浄機を適切に使用し、健康管理に配慮している。 ・園児は欠席した場合は、電話連絡をし家庭との連絡を密にしている。</td> </tr> <tr> <td>体力向上の取組</td> <td>・戸外遊びや運動遊びの励行 ・体操教室(年中組、年長組) ・なわとび運動への取組(年長組) ・マラソン大会に向けて持久力の育成 ・毎月の発育測定・身体測定の実施</td> <td>園では、子どもの体力作りに積極的に取り組んでいる。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>4</td> <td>・戸外遊びを好む園児が多く、鬼ごっこや遊具遊び、サッカーを楽しんでいる。特に大型遊具でのアスレチックは、どの学年においても大人気である。 ・年長組は、1年間を通してなわとびに取り組み、技能も高まった。その姿は、下の学年の憧れにもなった。 ・マラソン大会に向けて、計画的に練習に取り組み、持久力向上を図った。</td> </tr> <tr> <td>安心・安全な給食の提供</td> <td>・検食の実施 ・毎月の給食だよりの発行(季節行事を踏まえた献立や旬の食材を使った給食) ・食物アレルギーのある園児への対応</td> <td>園の給食の献立内容やアレルギー対応に満足している。</td> <td>アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満</td> <td>3</td> <td>・安心・安全を第一義として給食やおやつを提供している。食物アレルギーのある園児には、園生活管理指導書の提出を依頼し、保護者と栄養士が面談の上、代替食等について決めている。 ・旬の食材を活かした献立の立案に努めている。3学期には、子どものリクエストをもとにした献立で、子どもも喜んでいただいた。</td> </tr> </tbody> </table>	評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	質問内容	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	園経営・運営	園教育目標の具現化	・園だより、クラスだよりの発行 ・ブログの更新	園は、月々の目標や日常の教育活動の様子などわかりやすく伝えている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・各学年の月目標を園だよりに記載し、保護者にも周知を図っている。今後は、家庭と連携しながら月目標の達成を目指していく必要がある。そのためには、家庭で取り組んでほしいことを具体的に知らせるとよい。 ・園行事や園での生活・活動をブログに即時掲載し、こまめな更新に努めた。	保護者の参画意識の醸成	・公開保育(参観日)の実施 ・様々な園行事の公開 ・未就園児の会の開催	園は、子育て支援・保育参観・保育参加など、行きやすい雰囲気での幼稚園作りを積極的に行っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・運動会は観覧人数の制限を設けず実施でき、子どもがのびのびと遊ぶ姿を披露できた。 ・発表会や参観日、誕生日会等、来園者が多かったことから、保護者の参観意識の高さを感じた。 ・未就園児の会では、外部講師を招聘し、様々な活動に取り組んだ。参会者の拡大が今後の課題である。	緊急体制の確立	・れんらくアプリの活用 ・引き渡しカードの作成・確認	園から、緊急の場合の連絡方法など、対応について知らされている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・台風接近時や降雪時には、できるだけ早く園の対応を知らせ、保護者が勤務の調整ができるように努めたことで、大きな混乱がみられなかった。 ・引き渡しカードの点検・見直しを図るとともに、引き渡し訓練の実施が必要と考える。	危機対応体制の確立	・月1回の避難訓練の実施 ・毎月の施設及び遊具点検 ・毎日の保育室の安全点検	園では、防災・避難訓練など、園児の安全に関する適切な指導を行っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・地震、火事、大雨、水害、不審者等を想定し、毎月、避難訓練を実施し、大型絵本や寸劇等で、安全な避難について指導している。今後は、外部指導者を招聘したい。 ・毎月の定期点検に加え、毎日の目視点検を実施し、遊具や保育室の安全確認に努めている。	積極的な情報発信	・園だより、クラスだよりの発行 ・ブログの更新	園は、幼稚園の情報を園だより、クラス便りやブログなどを通じてわかりやすく保護者に伝えている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・園だよりでは、巻頭文で園での子どもの様子や園の保育・教育方針等を記述するとともに、保護者へのお願いやお知らせを掲載している。 ・子どもの活動の様子や行事の様子を、わかりやすい文章とたくさんの写真で伝え、読みたくなるクラスだよりになるように工夫した。	相談体制の確立	・連絡帳やれんらくアプリの「連絡帳」の活用 ・個人懇談の実施(1・3学期) ・必要に応じて、随時、相談を実施	園は、子どもの事や保護者の相談を聞く姿勢や体制を作っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・年2回の個人懇談の機会を設定するとともに、必要に応じて保護者からの相談に対応している。 ・送迎時に声掛けをしたり些細なことでも伝えるようにしたりして、話しやすい雰囲気づくりやボール形成に努めたが、肯定率が80%以下であることから、一層の聞く姿勢に心掛けたい。	預かり保育の充実	・家庭の実情を踏まえた預かり保育の受け入れ	園の預かり保育(長期・時間外)について満足している。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・預かり保育の人数が100名を超えており、担当教職員の人数が不足し、人数確保に苦慮している。今後、2号認定園児がますます増えていくことが予想されることから、場所や担当職員の人数等の対策が必要と考える。 ・長期休業中や午前保育でも、給食の提供など、保護者の支援となるよう対応している。	徳	発達段階に応じた教育	・各学年の教育・保育目標の設定 ・子どもに寄り添った教育・保育活動の実践 ・保育日誌による記録と振り返り ・必要に応じて個別の教育支援計画及び指導計画の作成 ・読書活動の推進	園は、子どもの発達に合った保育活動や園行事を行っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を指標として、子どもの思いや願いを見取り、保育・教育活動に取り組んできた。 ・ユニバーサルデザインの視点に立ち、特別な支援を必要とするか否かを問わず、どの子どもも大切に保育・教育を進めている。	基本的な生活習慣の形成	・登降園時のあいさつの励行(保育教諭の出迎えや声かけ) ・活動後の後始末の習慣付け ・「自分のことは自分で」の励行	園は、あいさつや身の回りの始末など、基本的な生活習慣を身に付け、生活できるように指導している。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・保育教諭から率先して挨拶をする姿を見せ、子どもたちの手本となるように心掛けてきた。 ・身の回りの整理整頓(後始末)については、日々の様々な活動の後に後始末の時間をとって、個別対応をしながら習慣化できるように丁寧に指導してきた。	交通安全指導の徹底	・定期的な交通安全教室の開催 ・正門前の横断歩道にて、渡り方指導 ・園外保育等での道路の歩き方の指導	園では、幼児の交通安全について子どもと保護者に適切な指導を行っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・学期に1回、交通安全教室を開催し、大型絵本や寸劇を通して、交通事故の恐ろしさや交通ルール等を指導している。 ・毎日の送迎時に、正門前の横断歩道で渡り方指導を行い、親子の交通安全意識を高めている。 ・園外保育等で、バスの乗り方や道路の歩き方について指導した。	親しみやすい園づくり	・子どもの表情等の観察(小さな変化を見逃さない) ・保育教諭の声かけ ・全教職員による見守り及び情報共有	子どもが喜んで登園し、明るく元気に遊んでいる。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・子どもが安心して友達と関わったり活動したりすることができるように、個々の子どもに声掛けをしたり全教職員で個々の子どもを見守ったりしている。 ・些細な気づきを伝え合い、学年会や職員連絡会等で教職員で共有するようにしている。	動植物への愛護心の育成	・季節の花を楽しむ花壇の整備 ・野菜の苗植え・収穫 ・うさぎの飼育と観察	園は、飼育栽培などを通じて動植物との関わりを持てるようにしている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	2	・教職員作業で花壇を整備し、子どもたちが季節ごとの花を楽しむことができるように努めている。 ・園外活動で、芋やじゃがいも、玉ねぎの植え付けや収穫を体験し、子どもは育てる喜びを感じている。 ・うさぎに接することができるように、天気の良い日には職員室前にうさぎのケージを出すようにしている。 ・子どもたちが動植物に関わる体験を増やしていく必要がある。	健康管理の徹底	・毎朝の健康観察の実施、アプリの確認(体温) ・毎朝の保育室の環境の点検 ・体調不良時やけがをした時における、適切な初期対応及び家庭への確実な連絡 ・感染症状況のお知らせ	園は、子どもの健康状態を把握し、健康管理について適切な処置をとれている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・毎朝、アプリを確認し、個々の健康状況の把握に努めている。体温の入力がない家庭への働きかけが必要。 ・毎朝、保育室の室温・湿度・臭い等を点検・記録し、良好な環境で園児を迎えるようにしている。エアコンや空気清浄機を適切に使用し、健康管理に配慮している。 ・園児は欠席した場合は、電話連絡をし家庭との連絡を密にしている。	体力向上の取組	・戸外遊びや運動遊びの励行 ・体操教室(年中組、年長組) ・なわとび運動への取組(年長組) ・マラソン大会に向けて持久力の育成 ・毎月の発育測定・身体測定の実施	園では、子どもの体力作りに積極的に取り組んでいる。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・戸外遊びを好む園児が多く、鬼ごっこや遊具遊び、サッカーを楽しんでいる。特に大型遊具でのアスレチックは、どの学年においても大人気である。 ・年長組は、1年間を通してなわとびに取り組み、技能も高まった。その姿は、下の学年の憧れにもなった。 ・マラソン大会に向けて、計画的に練習に取り組み、持久力向上を図った。	安心・安全な給食の提供	・検食の実施 ・毎月の給食だよりの発行(季節行事を踏まえた献立や旬の食材を使った給食) ・食物アレルギーのある園児への対応	園の給食の献立内容やアレルギー対応に満足している。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・安心・安全を第一義として給食やおやつを提供している。食物アレルギーのある園児には、園生活管理指導書の提出を依頼し、保護者と栄養士が面談の上、代替食等について決めている。 ・旬の食材を活かした献立の立案に努めている。3学期には、子どものリクエストをもとにした献立で、子どもも喜んでいただいた。
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	質問内容	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析																																																																																													
園経営・運営	園教育目標の具現化	・園だより、クラスだよりの発行 ・ブログの更新	園は、月々の目標や日常の教育活動の様子などわかりやすく伝えている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・各学年の月目標を園だよりに記載し、保護者にも周知を図っている。今後は、家庭と連携しながら月目標の達成を目指していく必要がある。そのためには、家庭で取り組んでほしいことを具体的に知らせるとよい。 ・園行事や園での生活・活動をブログに即時掲載し、こまめな更新に努めた。																																																																																													
	保護者の参画意識の醸成	・公開保育(参観日)の実施 ・様々な園行事の公開 ・未就園児の会の開催	園は、子育て支援・保育参観・保育参加など、行きやすい雰囲気での幼稚園作りを積極的に行っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・運動会は観覧人数の制限を設けず実施でき、子どもがのびのびと遊ぶ姿を披露できた。 ・発表会や参観日、誕生日会等、来園者が多かったことから、保護者の参観意識の高さを感じた。 ・未就園児の会では、外部講師を招聘し、様々な活動に取り組んだ。参会者の拡大が今後の課題である。																																																																																													
	緊急体制の確立	・れんらくアプリの活用 ・引き渡しカードの作成・確認	園から、緊急の場合の連絡方法など、対応について知らされている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・台風接近時や降雪時には、できるだけ早く園の対応を知らせ、保護者が勤務の調整ができるように努めたことで、大きな混乱がみられなかった。 ・引き渡しカードの点検・見直しを図るとともに、引き渡し訓練の実施が必要と考える。																																																																																													
	危機対応体制の確立	・月1回の避難訓練の実施 ・毎月の施設及び遊具点検 ・毎日の保育室の安全点検	園では、防災・避難訓練など、園児の安全に関する適切な指導を行っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・地震、火事、大雨、水害、不審者等を想定し、毎月、避難訓練を実施し、大型絵本や寸劇等で、安全な避難について指導している。今後は、外部指導者を招聘したい。 ・毎月の定期点検に加え、毎日の目視点検を実施し、遊具や保育室の安全確認に努めている。																																																																																													
	積極的な情報発信	・園だより、クラスだよりの発行 ・ブログの更新	園は、幼稚園の情報を園だより、クラス便りやブログなどを通じてわかりやすく保護者に伝えている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・園だよりでは、巻頭文で園での子どもの様子や園の保育・教育方針等を記述するとともに、保護者へのお願いやお知らせを掲載している。 ・子どもの活動の様子や行事の様子を、わかりやすい文章とたくさんの写真で伝え、読みたくなるクラスだよりになるように工夫した。																																																																																													
	相談体制の確立	・連絡帳やれんらくアプリの「連絡帳」の活用 ・個人懇談の実施(1・3学期) ・必要に応じて、随時、相談を実施	園は、子どもの事や保護者の相談を聞く姿勢や体制を作っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・年2回の個人懇談の機会を設定するとともに、必要に応じて保護者からの相談に対応している。 ・送迎時に声掛けをしたり些細なことでも伝えるようにしたりして、話しやすい雰囲気づくりやボール形成に努めたが、肯定率が80%以下であることから、一層の聞く姿勢に心掛けたい。																																																																																													
	預かり保育の充実	・家庭の実情を踏まえた預かり保育の受け入れ	園の預かり保育(長期・時間外)について満足している。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・預かり保育の人数が100名を超えており、担当教職員の人数が不足し、人数確保に苦慮している。今後、2号認定園児がますます増えていくことが予想されることから、場所や担当職員の人数等の対策が必要と考える。 ・長期休業中や午前保育でも、給食の提供など、保護者の支援となるよう対応している。																																																																																													
徳	発達段階に応じた教育	・各学年の教育・保育目標の設定 ・子どもに寄り添った教育・保育活動の実践 ・保育日誌による記録と振り返り ・必要に応じて個別の教育支援計画及び指導計画の作成 ・読書活動の推進	園は、子どもの発達に合った保育活動や園行事を行っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を指標として、子どもの思いや願いを見取り、保育・教育活動に取り組んできた。 ・ユニバーサルデザインの視点に立ち、特別な支援を必要とするか否かを問わず、どの子どもも大切に保育・教育を進めている。																																																																																													
	基本的な生活習慣の形成	・登降園時のあいさつの励行(保育教諭の出迎えや声かけ) ・活動後の後始末の習慣付け ・「自分のことは自分で」の励行	園は、あいさつや身の回りの始末など、基本的な生活習慣を身に付け、生活できるように指導している。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・保育教諭から率先して挨拶をする姿を見せ、子どもたちの手本となるように心掛けてきた。 ・身の回りの整理整頓(後始末)については、日々の様々な活動の後に後始末の時間をとって、個別対応をしながら習慣化できるように丁寧に指導してきた。																																																																																													
	交通安全指導の徹底	・定期的な交通安全教室の開催 ・正門前の横断歩道にて、渡り方指導 ・園外保育等での道路の歩き方の指導	園では、幼児の交通安全について子どもと保護者に適切な指導を行っている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・学期に1回、交通安全教室を開催し、大型絵本や寸劇を通して、交通事故の恐ろしさや交通ルール等を指導している。 ・毎日の送迎時に、正門前の横断歩道で渡り方指導を行い、親子の交通安全意識を高めている。 ・園外保育等で、バスの乗り方や道路の歩き方について指導した。																																																																																													
	親しみやすい園づくり	・子どもの表情等の観察(小さな変化を見逃さない) ・保育教諭の声かけ ・全教職員による見守り及び情報共有	子どもが喜んで登園し、明るく元気に遊んでいる。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・子どもが安心して友達と関わったり活動したりすることができるように、個々の子どもに声掛けをしたり全教職員で個々の子どもを見守ったりしている。 ・些細な気づきを伝え合い、学年会や職員連絡会等で教職員で共有するようにしている。																																																																																													
	動植物への愛護心の育成	・季節の花を楽しむ花壇の整備 ・野菜の苗植え・収穫 ・うさぎの飼育と観察	園は、飼育栽培などを通じて動植物との関わりを持てるようにしている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	2	・教職員作業で花壇を整備し、子どもたちが季節ごとの花を楽しむことができるように努めている。 ・園外活動で、芋やじゃがいも、玉ねぎの植え付けや収穫を体験し、子どもは育てる喜びを感じている。 ・うさぎに接することができるように、天気の良い日には職員室前にうさぎのケージを出すようにしている。 ・子どもたちが動植物に関わる体験を増やしていく必要がある。																																																																																													
	健康管理の徹底	・毎朝の健康観察の実施、アプリの確認(体温) ・毎朝の保育室の環境の点検 ・体調不良時やけがをした時における、適切な初期対応及び家庭への確実な連絡 ・感染症状況のお知らせ	園は、子どもの健康状態を把握し、健康管理について適切な処置をとれている。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・毎朝、アプリを確認し、個々の健康状況の把握に努めている。体温の入力がない家庭への働きかけが必要。 ・毎朝、保育室の室温・湿度・臭い等を点検・記録し、良好な環境で園児を迎えるようにしている。エアコンや空気清浄機を適切に使用し、健康管理に配慮している。 ・園児は欠席した場合は、電話連絡をし家庭との連絡を密にしている。																																																																																													
	体力向上の取組	・戸外遊びや運動遊びの励行 ・体操教室(年中組、年長組) ・なわとび運動への取組(年長組) ・マラソン大会に向けて持久力の育成 ・毎月の発育測定・身体測定の実施	園では、子どもの体力作りに積極的に取り組んでいる。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	4	・戸外遊びを好む園児が多く、鬼ごっこや遊具遊び、サッカーを楽しんでいる。特に大型遊具でのアスレチックは、どの学年においても大人気である。 ・年長組は、1年間を通してなわとびに取り組み、技能も高まった。その姿は、下の学年の憧れにもなった。 ・マラソン大会に向けて、計画的に練習に取り組み、持久力向上を図った。																																																																																													
安心・安全な給食の提供	・検食の実施 ・毎月の給食だよりの発行(季節行事を踏まえた献立や旬の食材を使った給食) ・食物アレルギーのある園児への対応	園の給食の献立内容やアレルギー対応に満足している。	アンケート肯定率 4 肯定率80%以上 3 肯定率50%以上～80%未満 2 肯定率40%以上＝60%未満 1 肯定率40%未満	3	・安心・安全を第一義として給食やおやつを提供している。食物アレルギーのある園児には、園生活管理指導書の提出を依頼し、保護者と栄養士が面談の上、代替食等について決めている。 ・旬の食材を活かした献立の立案に努めている。3学期には、子どものリクエストをもとにした献立で、子どもも喜んでいただいた。																																																																																														
6 学校評価総括(取組の成果と課題)																																																																																																			
◆新型コロナが第5類に移行し、日常生活が戻りつつある。園行事及び保育・教育活動においても、コロナ禍以前のものに戻すのではなく、コロナ禍によって試行錯誤した経験を生かし、これまでの行事や活動の見直しや精査を行い、リニューアルを図った。 ◆全教職員が一丸となり、「安全・安心」を最優先とし、こどもをまんなかに据えた保育・教育活動に取り組んだ。子どもたちは元々よく園生活を過ごしていたように感じる。 ◆保護者の協力により感染症対策の徹底に努めたことにより、インフルエンザによる学級閉鎖の措置は講じたものの、園全体に大きく広がることはなかった。 ◆共同研究では、子どもの発想をきっかけとして、全学年にわたる活動に広がり、異学年による交流に深まっていた事例を発表した。 ◆本年度は、幼稚園型認定こども園として2年目を迎え、保育棟の開園により、1歳児15名、2歳児5名の合計20名でスタートした。年度途中の9月からは0歳児クラスを開設し、2名の乳児を受け入れた。来年度は、幼保型認定こども園に向けての準備及び体制づくりが求められる。 ◆預かり保育の園児数が毎日100名を超えることや支援を要する園児数の増加により、教職員の人材確保が大きな課題となっている。																																																																																																			